

アナリスト レポート

緩やかに持ち直している

しがぎん
経済文化センター
(産業・市場調査部)

県内景気天気図



凡例

- 晴れ 晴れ一部曇り
- 曇り 曇り一部雨
- 雨

前月比

- 上昇・好転 横ばい
- 下降・悪化

県内景気の動向

現状 県内製造業の生産活動を鉱工業生産指数で見ると、前月に比べ食料品や生産用機械などで上昇したものの、化学や汎用・業務用機械などで低下したため、全体では2か月ぶりの低下となった。

需要面では、百貨店・スーパー販売額は、家電機器と家庭用品の低下が続いているものの、ウエイトの高い食料品が7か月連続で増加しているのをはじめ、身の回り品が3か月連続で増加し、衣料品も2か月連続で増加したため、全店ベースでは6か月連続で増加している。また、大型専門店などの他の小売業態の販売額は、新規出店が続くドラッグストアが25か月連続かつ大幅に増加しているのに加え、1店舗あたりの売上高も増加傾向が続いている。家電大型専門店が2か月ぶりに増加、ホームセンターは前年から横ばい、コンビニエンスストアは19か月連続で増加している。これらの結果、小売業6業態計の売上高は21か月連続で前年を上回り、消費者物価の上昇分を除いても3か月連続でプラスとなった。また、乗用車の新車登録台数は10か月連続で大幅増加し、軽乗用車の販売台数も3か月連続の増加となったため、3車種合計では11か月連続かつ大幅増加している。

投資需要では、新設住宅着工戸数が3か月連続かつ大幅減少し、公共工事の請負金額が2か月ぶりの大幅減少となったものの、民間設備投資の指標である民間非居住用建築物着工床面積が2か月ぶりの大幅増加となった。また、トラック新車登録台数は13か月連続かつ大幅増加となっている。

このような中、雇用情勢をみると、新規求人倍率は3か月ぶりに上昇したものの、有効求人倍率と実態に近い就業地別の有効求人倍率はともに僅かながら低下している。また、常用雇用指数は12か月連続で上昇した一方、製造業の所定外労働時間指数

は12か月連続かつ大幅低下している。これらの状況をまとめると、製造業の生産活動は、ウエイトの高い化学と汎用・業務用機械が前月の上昇から大幅低下に転じるなど、このところ一進一退の動きとなっている。需要面では、小売業6業態計売上高が物価上昇分を除いても3か月連続のプラスとなった。投資需要では、住宅投資と公共投資が大幅減少となったものの、民間設備投資が2か月ぶりの大幅増加となり、トラック登録台数の増加も続いている。したがって、県内景気の現状は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

今後の動向 県内製造業の生産活動については、世界的なIT関連財需要に底打ちの兆しが見えるものの、中国や欧州の景気が減速傾向にあることなどから、弱含みの推移になるとみられる。一方、個人消費については、サービス消費を中心に緩やかな回復の動きが続き、県が実施している「新・しが割キャンペーン」も県内の消費活動に一定の好影響をもたらすものと期待される。ただし、来年4月には物流・運送や建設、医療などの業界が影響を受ける時間外労働の上限規制が適応される「2024年問題」が迫っており、人件費や物流コストの増加と相まって、当面は物価上昇圧力の強い状態が続くと予想されることが懸念材料である。また、投資需要については、経済活動の回復に伴い省力化・省人化に向けたデジタル化投資など、前向きな投資の増加が見込まれる。

したがって、今後の県内景気については、内需を中心に緩やかな持ち直しの動きが続くとみられるが、物価高の長期化、人手不足による供給制約、海外景気の減速、中東情勢の緊迫化に伴う原油価格動向など、下振れリスクには引き続き注意する必要がある。

京滋の景気動向

京都府・滋賀県の景気は、持ち直している。個人消費は、持ち直している。観光は、着実に持ち直している。設備投資は、増加している。住宅投資は、緩やかに減少している。公共投資は、高水準で推移している。こうした中、生産は、横ばい圏内で

推移している。また、雇用・所得環境は、緩やかに改善している。
【日本銀行京都支店:「管内金融経済概況」(2023年11月14日発表)より】

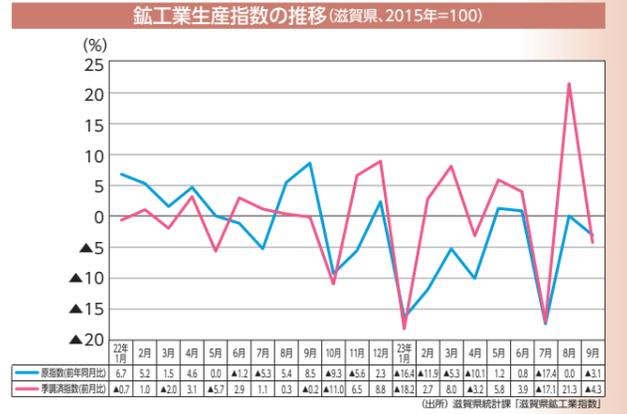
「鉱工業生産指数」の前月比は 2か月ぶりに低下

・鉱工業生産指数(2015年=100)の「原指数」(2023年9月)は111.4、前年同月比▲3.1%となり、2か月ぶりに低下した。また、「季節調整済指数」(以下、「季調済指数」)も105.0、前月比▲4.3%で、2か月ぶりに低下した。この結果、季調済指数の3か月移動平均値(23年8月)は101.7、前月比▲1.4%と2か月ぶりの低下となった。

・業種別季調済指数の水準が100の基準を上回ったのは、「生産用機械」(227.1)や「化学」(116.4)などで、一方、下回ったのは、「電子部品・デバイス」(48.4)や「窯業・土石製品」(70.0)、「金属製品」(72.5)など。

・前月に比べ高ウエイトで上昇した業種は、「食料品」(前月比+11.3%)や「生産用機械」(同+5.4%、半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置)などで、一方、低下したのは、「化学」(同▲

24.0%)や「汎用・業務用機械」(同▲19.6%)など。



「小売業6業態計売上高」は21か月連続で増加し、 物価上昇分を除いても3か月連続でプラス

・「消費者物価指数(生鮮食品を除く総合/大津市/2020年=100)」(23年10月)は105.1、前年同月比+2.5%、前月比+0.8%となった。前年同月比は24か月連続で上昇し、前月比も2か月ぶりに上昇した。このような中でエネルギーは前年同月比で▲11.6%と9か月連続かつ大幅低下したが、前月比は6か月ぶりの上昇となった(+7.0%)。また、乳卵類(前年同月比+22.2%)、家事用消耗品(同+16.5%)などで大幅な上昇となった。

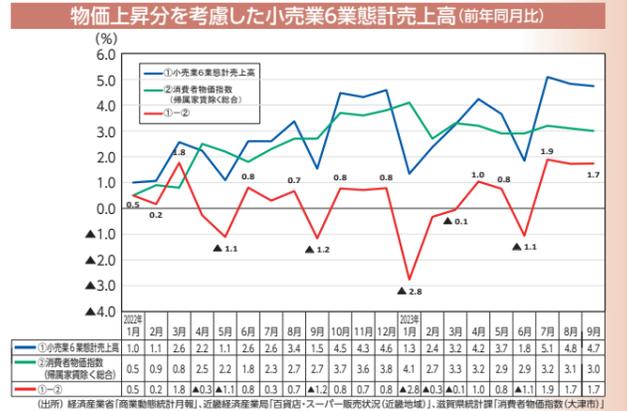
・「百貨店・スーパー販売額(全店ベース=店舗調整前、対象101店舗)」(9月)は、21,501百万円、同+3.0%と6か月連続で増加し、コロナ前の19年同月と比べても僅かながら増加している(+0.7%)。品目別では、「家電機器」(同▲4.1%)が3か月連続で低下し、「家庭用品」(同▲3.9%)も4か月連続で低下しているが、ウエイトの高い「食料品」(同+3.7%)が7か月連続で増加しているのをはじめ、「身の回り品」(同+3.4%)が3か月連続で増加し、「衣料品」(同+0.4%)も2か月連続で増加している。また、「既存店ベース(=店舗調整後)」(同+2.8%)は7か月連続の増加となった。

・大型専門店では、新規出店が続く「ドラッグストア」(全店ベース=店舗調整前、9月/255店舗、前年同月比+7店舗)が8,895百万円、同+13.5%と25か月連続かつ大幅増加しているのに加え、1店舗あたりの売上高(9月)も前年同月比+10.4%と、8か月連続かつ大幅増加している。また、「家電大型専門店」(同/41店舗)が3,790百万円、同+6.3%と、2か月ぶりに増加し、「ホームセンター」(同/67店舗)は3,134百万円で、前年から横ばい(同±0.0%)となった。「コンビニエンスストア」(同/538店舗)は9,946百万円、同+2.4%

となり、19か月連続の増加となった。

・これらの結果、「小売業6業態計売上高」(9月)は47,266百万円、同+4.7%となり21か月連続で増加し、消費者物価上昇分(帰属家賃を除く総合、9月、前年同月比+3.0%)を除いても、3か月連続でプラス(同+1.7%)となった。

・「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」(10月)については、「小型乗用車(5・7ナンバー車)」が3か月ぶりに大幅減少したものの(879台、前年同月比▲12.0%)、「普通乗用車(3ナンバー車)」が14か月連続かつ大幅増加したため(2,051台、同+36.8%)、2車種合計では10か月連続で大幅増加している(2,930台、同+17.3%)。さらに、「軽乗用車」の販売台数も3か月連続の増加となり(1,812台、同+1.5%)、これらの結果、3車種の合計は11か月連続かつ大幅な増加となった(4,742台、同+10.7%)。



「民間非居住用建築物着工床面積」は 2か月ぶりに大幅増加

・「民間非居住用建築物着工床面積」(23年10月)は41,875㎡、前年同月比+36.3%で、2か月ぶりに大幅増加した。

・用途別にみると、「鉱工業用」(12,026㎡、同+23.0%)は2か月ぶりに大幅増加、「商業用」(16,495㎡、同+84.0%)は5か月ぶりに大幅増加、「サービス業用」(10,199㎡、同+2.3%)も2か月ぶりに増加した。この結果、3業種計(38,720㎡、同+34.9%)は2か月ぶりの大幅増加となった。

・トラック新車登録台数(10月)は、「普通トラック(1ナンバー車)」(125台、前年同月比+71.2%)が8か月連続かつ大幅増加、「小型四輪トラック(4ナンバー車)」(187台、同+1.1%)は2か月ぶりの増加となった。これらの結果、2車種合計(312台、同+20.9%)では13か月連続かつ大幅増加している。

